

**児童・生徒の現状・課題**

- ・先の見通しをもつことが苦手
- ・探究的な意欲は見受けられない
- ・課題に取り組む意味・意義に理解が至らない。



**学び続ける力を育むための重点目標**

○単元や小単元の終わり等で、まとめ活動や学習の振り返り活動などの場面を設定し、「分かった」「できた」と生徒自身が感じられるようにする。



**児童生徒調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	74.6	80.0	77.2
②学習した内容や方法、自分の力をどれだけ伸ばすことができたかなど、振り返りことができる。	76.8	80.0	81.3

**教員調査**

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	50.0	60.0	82.3
②問題や課題に取り組んでも上手いかない時には、どうすればよいか、児童・生徒が自ら方法を選択し行動できるよう、解決の方法を示している。	85.7	90.0	82.4

**具体的な手だて①**

【Qubena の活用】

毎時間ワークブック等に取り組ませ、苦手を可視化する。苦手な問題を繰り返し解かせることで「分かった」「できた」と感じさせる。

**具体的な手だて②**

【振り返り活動】

単元や小単元の終わり等で振り返り活動を行い、学習前後で既知の内容が増えたことを可視化し、「分かった」「できた」と感じさせる。

**具体的な手だて③**

【課題設定の工夫】

授業内に、生徒自ら難易度が設定できるような課題設定を行う。それにより、自分から進んで計画を立てて学習する力を育てる。



**校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫**

- ・各研修内容を、C4th 等連絡掲示板を活用して共有し、その場のみの理解にならないようにする。

**総括(7月)**

学習において、「先の見通しをもつことが苦手」「探究的な意欲に課題がある」といった課題が見受けられた。そこで、単元の節目等での「振り返り活動」を充実させる改革を全教科で取り組み、「分かった」「できた」と感じさせていくことを全教員で共通認識としてもらった。

**総括(1月)**

「自分から計画を立てて学習する生徒」は昨年度より 2.4 ポイント上昇した。教員調査では、「生徒が学び方を選択する場面を設定している割合」が 32.3 ポイント上昇した。学び方が分かると自分から学ぶことにつながる傾向がある。また、教員同士の情報共有が授業での振り返り活動の手立てを多様化させ、さまざまな面から生徒の学びを見取ることができることも分かった。